



彦根キャンパス「滋賀大学大学院Future Class Room」にて

滋賀大学長 竹村 彰通

Profile

1952年生まれ。1976年東京大学経済学部卒業、1978年東京大学大学院経済学研究科理論経済学・経済史学専門課程修士課程修了。米国スタンフォード大学統計学部客員助教授、米国パーデュー大学統計学部客員助教授、東京大学経済学部教授、東京大学大学院情報理工学系研究科教授を経て、2015年5月滋賀大学に着任。2017年4月から滋賀大学データサイエンス学部長、2022年4月から現職。

学長メッセージ

彦根高商百周年を迎えて

創立時の理念を継承し、社会課題の解決への貢献を

滋賀大学の前身である彦根高等商業学校は大正12年(1923年)に開校しました。今年は開校から100年の節目を迎えます。彦根キャンパスの象徴的な建物である講堂や陵水会館は当時の雰囲気を残しています。このような伝統的な建物が残っているキャンパスは国立大学の中でも大変珍しいものです。

100年前といえますと、我が国が明治維新後、大正に至り、国力が飛躍的に発展した時代です。その中で、専門性の高い人材養成の必要性から、近江の地から全国に活動を展開し活躍した近江商人を多く輩出した彦根の地に、高度職業人の育成を理念として彦根高商が設立されました。開校以来、日本社会において、特にその経済活動を支える多くの有為な人材を輩出してきました。

そして、創立100周年を迎える今、世界はビッグデータやAIなどが普及した新しい産業構造への転換や、コロナ禍にみられるリスクへの挑戦等の新たな課題に直面しています。大学にも、社会とより密接な連携をし、複雑な社会課題の解決への貢献が求められています。彦根高商の流れを受け継ぐ本学経済学部と2017年に開設された日本初のデータサイエンス(DS)学部は、その創立時の理念を継承

し、新時代を切り拓くべく革新を図っています。より具体的には、国内最高のDS教育・研究拠点としての機能強化、経済領域とDS領域の融合による新しい「ビジネスサイエンス」の展開と普及を進めていきます。大学院レベルでは、文部科学省の支援を受け、経済×DS及び教育×DSの新たなプログラムを開始します。

100周年の成功に向けて、彦根キャンパスの同窓会である陵水会の皆さんからは熱い支援をいただいております。100周年は、卒業生の方々から大学が支援を受けるのみならず、大学から卒業生の方々の生涯教育に役に立つコンテンツを提供し、卒業生との新たな関係を築く機会にしたいと考えています。また、100周年のさまざまな行事は、現役の学生の皆さんが卒業生と交流する良い機会にもなると思います。新入生の皆さんも100周年に関する行事を通じてキャンパスの歴史と伝統を身近に感じてもらえると思います。

彦根キャンパス100周年の後には、2025年に大津キャンパスで附属学校開校150周年を迎えます。こちらも是非成功させたいと考えています。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。